

令和 3 年 6 月 6 日現在

機関番号：25406
研究種目：基盤研究(C) (一般)
研究期間：2017～2020
課題番号：17K04223
研究課題名(和文) 精神保健福祉士の資質向上を促進するキャリアラダー開発と支援策の評価に関する研究

研究課題名(英文) Development of Career Ladder to Promote the Quality Improvement of Mental Health Social Worker and Evaluation of Support Measures

研究代表者
越智 あゆみ(Ochi, Ayumi)

県立広島大学・保健福祉学部(三原キャンパス)・准教授

研究者番号：60445096
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、精神保健福祉士がキャリアラダーに沿って着実に資質向上を図ることができるように、現行の資質向上支援を評価した上で、求められる資質向上支援の内容と仕組みを根拠にもとづいて提案することであった。本研究の成果として、「精神保健福祉士のキャリアラダー」と「ワークシート」(通称：さくらセット)が完成した。専門職業人として整えていくべき力量を6つに分類したキャリアラダーを参照しながら、ワークシートに記入する個人ワークと振り返り担当者とのペアワークで資質向上を図るツールを開発できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
厚生労働省内に設置された「精神保健福祉士の養成の在り方等に関する検討会」は、最終とりまとめで、「精神保健及び精神障害者の福祉を取り巻く環境の変化による業務の内容の変化に適応できる人材を養成する観点から、おおむね共通して求められる標準的な能力等を整理したキャリアラダーが必要」と指摘した。本研究では、調査研究に基づき、「精神保健福祉士のキャリアラダー」を活用して資質向上を図るツールを開発した。これは社会的要請に応える研究成果であり、学術的にも社会的にも意義は大きい。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to (1) evaluate the current quality improvement support and (2) propose the required content and system of quality improvement support based on evidence so that mental health social workers can steadily improve their qualifications along the career ladder. As a result of this study, the Career Ladder for Mental Health Social Worker and Worksheet (called "Sakura Set") were completed. We developed a tool to improve qualities through individual work to fill in the worksheet while referring to a career ladder with six categorized competencies to be developed as professionals, and pair work with a person in charge of reflection.

研究分野：社会福祉学

キーワード：精神保健福祉士 資質向上 キャリアラダー さくらセット

1. 研究開始当初の背景

我が国の精神疾患患者は、平成 11 年患者調査では 204.1 万人であったが、平成 26 年調査では 396.5 万人に達し、15 年間で 192 万人増加した。メンタルヘルズ課題に関わるニーズは増大かつ多様化しており、精神保健福祉士への期待が高まっている。医療機関の機能分化や障害福祉サービスの制度改正など、精神保健福祉士を取り巻く環境が目まぐるしく変わる中で、精神保健福祉士が実践力を発揮していくには、就職後の継続教育が不可欠となる(石川 2014)。精神保健福祉士を対象とする継続教育は、研修、スーパービジョン、自己研鑽の 3 形態で取り組まれているが、ニーズに即した資質向上支援となっているかを評価する研究は十分に蓄積されていない。申請者は、他職種の資質向上支援について情報収集し、看護師の継続教育で活用されているキャリアラダーに着目した。キャリアラダーは、ステップアップのプロセスを明確にして資質向上の機会を提供する仕組みである(久保 2012)。看護領域で蓄積された先行研究を確認すると、キャリアラダーがモチベーションの向上や組織全体の支援の質に影響すること(久留島ら 2010)、時間確保の課題や将来の方向性を具体化できる支援の重要性(水谷ら 2014)、教育・研究活動を支援する職場環境整備の重要性(東野ら 2012)などが明らかにされていた。そこで申請者は、看護師の例を参考に精神保健福祉士のキャリアラダーを作成すれば、資質向上支援のあり方を考える手がかりが得られるのではないかと考え、本研究を構想した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、精神保健福祉士がキャリアラダーに沿って着実に資質向上を図ることができるよう、現行の資質向上支援を評価した上で、求められる資質向上支援の内容と仕組みを根拠にもとづいて提案することであった。

3. 研究の方法

研究目的を達成するため、次の方法を用いた。

1 点目の目的に対しては、幅広い領域(医療・地域・行政・司法等)で働く、多様なキャリアの精神保健福祉士を対象としたインタビュー調査を実施した。この調査は、実践者が抱える業務課題と、それを解消・解決するために取り組む資質向上支援などの現状を詳細に把握したうえで、現場に必要な資質向上支援の内容と仕組みを提案することを目的に実施した。調査対象者は経験年数をもとに 3 グループに分け、グループインタビューを実施した。日々の実践における経験(業務での困難及び対応方法)、研修等への参加状況や参加を困難とする要因、研修等で得た知識や技術・情報などの活用方法及び課題などを含めたインタビューガイドを用いて半構造化インタビューを行い、結果は質的に分析した。

2 点目の目的に対しては、「精神保健福祉士のキャリアラダー」と「ワークシート」の案を作成後、実践現場で働く精神保健福祉士に一年間試行してもらいモニタリング調査を実施した。モニタリング調査は、22 人の精神保健福祉士に協力を得て、3 か月後、6 か月後、12 か月後の計 3 回実施した。モニタリングで出された意見をもとに、「精神保健福祉士のキャリアラダー」と「ワークシート」を完成させた。

4. 研究成果

幅広い領域で働く、多様なキャリアの精神保健福祉士を対象としたインタビュー調査の結果を論文にまとめて投稿したところ、採択・掲載された(岡田・越智・松本(2019)「PSW の資質向上に関する研究：経験年数による違いに着目した現任教育への提言」『精神保健福祉』117, 166-179.)。この論文では、次のことを報告した。新任期の PSW は、組織社会化を遂げていくために先輩や上司から「聞く/教わる」技術が必要となり、中堅期以降の PSW は先輩・上司として「教える/指導する」技術が必要となるが、両者ともにこれらを実施することに困難性を認識していることが明らかになった。また、経験年数を問わず、将来ビジョンの描きにくさや研修受講環境の厳しさがあり、資質向上の必要性を認識しているにも関わらず、具体的な行動に移せない状況があることが明らかになった。さらに、一定年数以上の実務経験を積んだベテラン期の PSW の中には役職が与えられ、管理業務に追われることや、ソーシャルワークの価値・理念と所属する組織の理念や経営方針の狭間で葛藤を抱えていることが明らかになった。これらの結果に基づき、PSW の現任教育を充実させる方策として以下を提案した。職能団体等で提供する研修の多様化を図り、新任期には「聞く/教わる」、中堅期以降には「教える/指導する」方法論を加え、中堅期以降の PSW を対象に管理職教育機会を提供すること。資質向上への環境整備のための仕組みと支援策を講じ、キャリアビジョンを描きやすくするためにキャリアラダーを導入すること、OJT と OFF-JT の効果的な連動を図るとともに、本来業務以外の多様な取り組みを学習機会に援用しながら、個人が資質向上を進める支援を充実させることを提案した。

「精神保健福祉士のキャリアラダー」と「ワークシート」は、精神保健福祉士がイキイキと働き続けられるための現任教育を支援するツールとして開発を試みた。本研究では、「資質向上」とは専門職として必要な力量を高めていくこと、「キャリアラダー」とは実践に必要な力量を項目別にし、レベル別にして表したもの、「ワークシート」とは目標やそれに向けた具体的な達成

課題や実施手順等を記入するものと定義した。その上で、ワークシートには目標と課題等を設定し、指導者や同僚などの他者と協働しながら定期的に振り返り、達成状況の確認等を行っていく資質向上支援策を考えた。これらの案を作成後、実践現場で働く精神保健福祉士に一年間試行してもらいモニタリング調査を実施して、実際に使ってみて感じたキャリアラダーの効果や使いやすさ、工夫が必要な点、キャリアラダーを使って感じる自分自身の成長や変化への気づきなどについて「生の声」を聴き取ることができた。このモニタリングで出された意見をもとに、「精神保健福祉士のキャリアラダー」と「ワークシート」を完成させるとともに、これらを活用するための手引きを作成した。

本研究の成果物として、「精神保健福祉士のキャリアラダー」と「ワークシート」(通称：さくらセット)を完成させることができた。表1に、「精神保健福祉士のキャリアラダー」の枠組みを示した。専門職業人として整えていくべき力量を大きく6つ(仕事と暮らしの調和、社会人・組織人としての力、専門職・実践者としての力、自己研鑽、専門職教育・研究、ソーシャルワーカー意識)に分類し、それぞれ5段階(レベル)に整理した。「ワークシート」は、「フェイスシート」と「振り返りシート」で構成した。さくらセットは、「精神保健福祉士のキャリアラダー」を参照しながら、ワークシートに記入する個人ワークと振り返り担当者とのペアワークで資質向上を図るツールである(表2)。さくらセットの特長や実際の活用方法については、さくらセット活用の手引きにまとめた。これら本研究の成果物は、公益社団法人日本精神保健福祉士協会ウェブサイト内から、誰でも入手することができる環境を整えることができた。

表1 完成した「精神保健福祉士のキャリアラダー」の枠組み

| 資質向上の目安 | ステップ1 | ステップ2 | ステップ3 | ステップ4 | ステップ5 |
|-------------------------|-----------------|----------------|---|--------------------|-----------------------|
| (新卒者を想定して作成) 求められる力量 | 1~2年 | 3~5年 | 6年~10年 | | 11年以上 |
| 1.仕事と暮らしの調和 | 自分の生活との調和を図る | | 自分のライフイベント(結婚、出産、育児、育休/共働き、本人・家族の健康など)との調和を図る | | 生活と仕事の調和を図れる体制を作る |
| 2.社会人・組織人としての力 | 初任者(前期) | 初任者(後期) | チームリーダー/業務責任者 | | 管理職(者) |
| 3.専門職・実践者としての力 | 指導下での業務遂行 | 自立した業務遂行 | リーダーシップを発揮した業務遂行 | | 体制づくりを志向した業務遂行 |
| 4.自己研鑽 | 教わる、学習する姿勢の修得 | 機関内の人材や機会の活用 | 多機関・多職種の人材や機会の活用 | | 多領域の人材や機会の活用 |
| 5.専門職教育・研究 | 育っていく力の修得 | 実践の言語化・伝達/実習指導 | 実践の見える化、理論化/後進育成 | 実践・研究成果の共有・蓄積/後進育成 | 社会的向上への働きかけ/後進育成体制の構築 |
| 6.ソーシャルワーカー意識 | ソーシャルワーカーとしての一歩 | 立脚点の確認 | 専門性の再認識・役割葛藤の理解 | 倫理的ジレンマとの対峙 | アイデンティティの保持 |

表2 「精神保健福祉士のキャリアラダー」と「ワークシート」(通称：さくらセット)活用の流れ

| |
|---|
| フェイスシート作成時 |
| 1.【個人】「所属機関(施設)の役割」「なりたい自分(個人の目標)」を記入し、目標を見定める。 |
| 2.【個人】「目標にするステップ」と「具体的な達成課題」を具体化する。 |
| 3.【個人】「具体的な達成課題」を選んだ理由・動機、重要度を書き残す。 |
| 4.【ペア】目標達成の手段と手順を記入し、振り返り担当者と共有する。 |
| 振り返りシート作成時 |
| 5.【個人】取り組んだこと、実施者本人が考えたことを記入する。 |
| 6.【ペア】振り返り担当者と面談。その後、振り返り担当者から伝えられたことを記入する。 |

<引用文献>

石川到寛(2014)「精神保健福祉士の資格の発展」公益社団法人日本精神保健福祉士協会編『日本精神保健福祉士協会50年史』中央法規出版。
 久保善子(2012)「産業看護を支える基礎概念 - ベナー看護 理論臨床技能習得の段階に関する理論」『産業看護』4(4), 2-7。
 久留島美紀子・豊田久美子(2010)「看護師のクリニカル・ラダーに対する認識：第二報」『人間看護学研究』8, 89-95。
 水谷聖子・東野督子・大野晶子・柿原加代子・杉村鮎美・石黒千映子・三河内憲子(2014)「教

育計画・研究支援環境からとらえた大規模病院における看護師のキャリア支援」『日本赤十字
豊田看護大学紀要』9(1),95-104.
東野督子・水谷聖子・大野晶子・柿原加代子・沼田葉子・小笹由里江・三河内憲子(2012)「赤
十字病院のキャリア開発ラダーにおける継続教育・研究環境に関する調査研究」『日本赤十字
豊田看護大学紀要』7(1),161-166.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 岡田隆志・越智あゆみ・栗原活雄・鈴木詩子・鈴木知子・森新太郎・山田敦・島内美月・渡邊俊一・洗成子・岡本秀行・松本すみ子 | 4. 巻 52(2) |
| 2. 論文標題 キャリアラダーの開発プロセス - 精神保健福祉士の資質向上を目指して - | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 精神保健福祉 | 6. 最初と最後の頁 - |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 岡田隆志・越智あゆみ・松本すみ子 | 4. 巻 50(2) |
| 2. 論文標題 PSWの資質向上に関する研究：経験年数による違いに着目した現任教育への提言 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 精神保健福祉 | 6. 最初と最後の頁 166-179 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 松本すみ子 | 4. 巻 48(2) |
| 2. 論文標題 全世代・全対象型地域包括支援と精神保健福祉士 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 精神保健福祉 | 6. 最初と最後の頁 82-89 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 岡田隆志・栗原活雄・越智あゆみ・鈴木詩子・鈴木知子・森新太郎・山田敦・島内美月・渡邊俊一・洗成子・岡本秀行・松本すみ子 |
| 2. 発表標題 現任者向け資質向上支援ツールの開発プロセス～「キャリアラダー」と「ワークシート」活用方法のご紹介～ |
| 3. 学会等名 第19回日本精神保健福祉士学会学術集会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 岡田隆志・栗原活雄・越智あゆみ・鈴木詩子・鈴木知子・森新太郎・山田敦・島内美月・渡邊俊一・松本すみ子・洗成子・岡本秀行 |
| 2. 発表標題 精神保健福祉士がイキイキと働き続けられるために～専門性を育む現任教育のススメ～ |
| 3. 学会等名 第18回日本精神保健福祉士学会学術集会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 岡田隆志・大塚直子・越智あゆみ・河村隆史・栗原活雄・鈴木知子・長谷川治・松本すみ子・洗成子・齊藤晋治 |
| 2. 発表標題 精神保健福祉士の資質向上を促進するキャリアラダー開発と支援策の評価に関する研究 - グループインタビューによる質的分析から - |
| 3. 学会等名 第16回日本精神保健福祉士学会学術集会 |
| 4. 発表年 2017年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

| |
|---|
| <p>岡田隆志・栗原活雄・越智あゆみ・鈴木詩子・鈴木知子・森新太郎・山田敦・島内美月・渡邊俊一・松本すみ子・洗成子・岡本秀行（2020）「精神保健福祉士がイキイキと働き続けられるために～専門性を育む現任教育のススメ～」『精神保健福祉』51（1），41頁，査読なし。</p> <p>岡田隆志・栗原活雄・越智あゆみ・鈴木詩子・鈴木知子・森新太郎・山田敦・島内美月・渡邊俊一・洗成子・岡本秀行・松本すみ子（2021）「現任者向け資質向上支援ツールの開発プロセス～「キャリアラダー」と「ワークシート」活用方法のご紹介～」『精神保健福祉』52（1），43頁，査読なし。</p> <p>公益社団法人日本精神保健福祉士協会・精神保健福祉士の資質向上推進委員会（2020）「精神保健福祉士のキャリアラダーとワークシート（さくらセット）活用の手引き」公益社団法人日本精神保健福祉士協会発行。</p> <p>webページ：「精神保健福祉士のキャリアラダーとワークシート（さくらセット）」（公益社団法人日本精神保健福祉士協会ウェブサイト内に開設） URL： https://www.jamhsw.or.jp/ugoki/kensyu/sakura-set.html</p> |
|---|

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|---|----|
| 研究分担者 | 松本 すみ子 (MATSUMOTO Sumiko) (20316673) | 東京国際大学・人間社会学部・教授 (32402) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|--|----|
| 研究分担者 | 齊藤 晋治 (SAITO Shinji) (00368804) | 健康科学大学・健康科学部・教授 (33504) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
| | |